

国際理解と国際誤解

足利市立教育研究所 *Brandon Lambert*

私は、足利の姉妹都市、イリノイ州スプリングフィールド市から来ました、ブランドン・ランバートです。足利に来て、1年半になります。1年半の間、楽しく過ごせたのは、皆様の協力と助けがあったからです。

これから、国際理解と国際誤解について述べたいと思います。

様々な国や異なる文化を持った人々には、3つの相違点があります。言葉、文化、そして人間の人格です。

この3つの中で、1番の曲者は、“言葉”の壁でしょう。外国語は、話せるに越したことはないかもしれませんが。外国語を話せれば、視野も広がって、いろいろなチャンスや知識を得ることができます。

先日、タイに行った時に、バンコクで“春巻”を頼もうとしました。私はタイ語が話せませんので、英語で“スプリングロールを下さい”と言いました。ウェイトレスは、私の言っていることが分からなかったようなので、“スプリングロールを1つ下さい”と、もう一度言いました。それでもまだ分からなかったようなので、日本語で“春巻をお願いします”と言いましたら、“ああ、春巻。はい、分かりました。”と、ついに分かってくれました。

私は日本で、イランや中国などから来た人とも、友達になりました。私たちの共通語は、日本語だけです。私の日本語は、あまり上手くありませんが、日本語を通して、様々な文化や人々について学んでいます。同じ言語を話さない人に、相撲や、同和問題について説明するのが、いかに大変で難しいかを考えてみて下さい。言葉というのは、ときに、文化ととても深い関係があるのです。

ところが、世界中には、言葉が通じなくても、国際的に強く結ばれた人々がたくさんいます。いくつもの言語を話す人が、必ずしも国際的であるとは限らないと思います。国際人になろうとする人にとって、多くの言葉を使えるということは必要ないのです。

私は現在、日本の中学生に英語を教えています。大切なことは発音とか文法とか、決して難しいことではなく、お互いがコミュニケーションをとろうとする気持ちや心だと思います。

異文化を理解するためには、まず自分の国の文化を理解する必要があります。皮肉なことに、他の国の文化を経験することによって、自分の国の文化を改めて理解することがあるものです。例えば、私が日本に来た時に、たくさんの日本人に、アメリカで、銃やドラッグを持っていたかどうか聞かれました。私はすぐに、日本人だけではなく、世界中の人が、アメリカは危険な国だと思ってるのだ、と気付きました。

私の家族は、家の鍵を持っていません。なぜなら、鍵を使う必要がないからです。私の知っているアメリカは、危険な国ではないのです。一般的に言って、日本の大都市と比べて、アメリカの大都市は、とても危ないと思いますが。

もう1つの例として、私は、日本で多くの伝統的なものを体験しました。例えば、お花見や、花火、お正月、節分、様々な国宝、お寺、お祭りなどがそうです。日本のそういう由緒ある伝統を見てしまうと、アメリカには、そういったものがあまりないと感じてしまいました。しかし、ハロウィンなどのような、アメリカの行事を説明する機会があり、その時、私の国には、日本のような長い歴史はないけれども、文化や伝統もたくさんあることに気付きました。国際化というのは、必ずしも外国についてだけの知識を広げるものではなくて、自国についての事、自分の知識そして、他人の知識をも広げるものだと思います。

日本人の友達に囲まれていると、時々自分がみんなとちがう、ということを忘れてしまいます。アメリカには色々な人種の人があるので、“人種のるつぼ”と言われていますが、私の育った小さな町は、100%が白人でした。もし、黒人が町の中を歩いていたら、人々はじろじろ見て、黒人の悪口を言うでしょう。私が子供の頃も、黒人のことを話す時には“差別用語”を使っていたと思います。何でそんなことをしていたのでしょうか。多分それは、私の育った背景の中に、異文化を持った人と話す機会が一度もなかったからでしょう。

足利にはアメリカ人が少ないので、そこにいる人の中で自分だけがアメリカ人、ということが多々あります。そういう時、自分の言動、行動が、すべてのアメリカ人の言動、行動のようにとられることもあるかもしれません。人は、他人から見たり聞いたりすることによって物事を判断することがあるからです。

現在、私は足利で、外国語、異文化、外国人について、人々の理解を深めることを目的に働いています。私は、アメリカの代表者のつもりで、注意して行動しなければならないと思っています。普段、外国人と話したり、海外旅行をする際にも、自分が自国の代表者という意識を持てば、国際誤解を最小限にできると思います。